

2019年3月3日(日)朝10:10～

降誕節第10、自由交歓会等

3月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：敵を愛し迫害する者のために 祈りなさい

聖書：マタイ 5章43～48節

<口語訳>

新約聖書7頁

マタイ 5章43～48節

<新共同訳>

新約聖書8～9頁

マタイ 5章43～48節

<新改訳第3版>

新約聖書8～9頁

マタイ 5章43～48節<塚本訳>

新約聖書79～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ5章43～48節**です。**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中理解する中で、**本日の箇所**に聞きます。
- ◇**マタイ5章17～48節**は、「**天の国の戒め・律法**」で、「**御子イエス・キリスト様**」は、**マタイ5章1～16節**の「**幸い**」が、反映されています。
- ⇒**神の民イスラエル**は、**モーセの律法**、その中心である**十戒**を**民の律法**として**大事にし**、その解釈や適応も**詳細**でした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」が、語られた「**幸いの律法・天の国の戒め**」には、「**イスラエルの律法学者**」の「**義**」を超える「**戒め**」があり、「**敵を愛し迫害する者のために祈りなさい**」もその一つ。
- ◇「**主の弟子たちの役目**」は、**大事**です。

本論；

◇本日、マタイ書5章43～48節から主の使信に思い・心をとめます。

◆マタイ5章43～48節；使徒マタイは、神の御子イエス・キリスト様が、敵を愛して迫害する者のために祈りなさいの命令に従えない自分を認め、どこまでも神の完全にならない、十字架の恵みに頼って生きるよう語っています。

◇43～48節；塚本訳◆イエスの戒め◆敵を愛せよ

「43 あなた達は(昔の人がモーセから、)『隣の人を愛し、』敵を憎まねばならない、と命じられたことを聞いたであろう。

44 しかしわたしはあなた達に言う、敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ。

45 あなた達が天の父上の子であることを示すためである。父上は悪人の上にも善人の上にも日をのぼらせ、正しい人にも正しくない人にも、雨をお降らしになるのだから。

46 自分を愛する者を愛したからとて、なんの褒美があろう。(人でなしと言われるあの)

税金取りでも同じことをするではないか。

47 また兄弟にだけ親しくしたからとて、なんの特別なことをしたのだろう。異教人でも同じことをするではないか。

48 だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』と、マタイは、主のことばを語っています。

◇43～48節；「あなた達は(昔の人がモーセから、)『隣の人を愛し、』敵を憎まねばならない、と命じられたことを聞いたであろう」、「しかし」、「わたしはあなた達に言う、敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ」、「あなた達が天の父上の子であることを示すためである」、「父上は悪人の上にも善人の上にも日をのぼらせ、正しい人にも正しくない人にも、雨をお降らしになるのだから」、「自分を愛する者を愛したからとて、なんの褒美があろう。(人でなしと言われるあの)税金取りでも同じことをするではないか」、「兄弟にだけ親しくしたからとて、なんの特別なことをしたのだろう。異教人でも同じことをするではないか」、「だからあなた達は、天の父上が完全で

あられるように『完全になれ。』と、「御子イエス・キリスト様」は、「あなた達は(昔の人がモーセから、)『隣の人を愛し、』敵を憎まねばならない、と命じられたことを聞いたであろう」、「しかし」、「わたしはあなた達に言う、敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ」と命じられ、「あなた達が天の父上の子であることを示すためである」と、命令の理由を述べられた。「父上は悪人の上にも善人の上にも日をのぼらせ、正しい人にも正しくない人にも、雨をお降らしになるのだから」と、「御子イエス・キリスト様の父上なる神」が、「正しい人にも正しくない人にも、日をのぼらせ、雨をお降らしになる」公正なお方だから、「だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』」と、再度命じておられる。

⇒同時に、「自分を愛する者を愛したからとて、なんの褒美があろう。(人でなしと言われるあの)税金取りでも同じことをするではないか」とか、「兄弟にだけ親しくしたからとて、なんの特別なことをしたのだろう。異教人でも同じことをするではないか」と、事例を上げている。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、①「わたしはあなた達に言う、**敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ**」と②「**だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』**」との2つの命令を主の弟子たちに与えておられる。

◆「**わたしの敵**」は、「あなたが憎くて憎くてたまらない」ような人、あなたを何とかして傷つけてやろう、二度と立ち上がれないくらい精神的に致命傷を負わせてやろう、という**悪意と執念**の人です。そんな人を憎み返すのではなく、愛して大事に思えというのがこの意味です」と、**OA師**は、語っておられます。

⇒「**敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ**」とは、「**そんな人を憎み返すのではなく、愛して大事に思え**」ということで、「**悪意と執念の人**」を「**憎み返すのではなく、愛して大事に思え**」は、**神のわざ**です。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、明らかに**十字架の死**によって、あなたのすべての罪を背負っているから、「**憎み返すのではなく、愛して大事に思え**」と、語りかけてられるのです。

◆2つ目の命令は、「**天の父上の完全になれ**」です。

⇒この「**完全**」は、「**完璧**」ではなく、「**欠けがなく**」で、「**御子イエス・キリスト様**」からすれば同じことですが、「**不完全な者**」にとっては、1つ1つの**欠け・罪**を「**御子イエス・キリスト様**」が贖い、覆ってくださるので、「**欠けない者**」と認めて下さるのです。

⇒罪が赦され、罪が覆うわれても、罪過ちを犯さなくなるのではありません。毎日毎瞬、罪に気づく度に、悔い改めて、神を仰ぐことです。

⇒「**自分を愛する者を愛したからとて、なんの褒美があろう。(人でなしと言われるあの)税金取りでも同じことをするではないか**」、「**兄弟にだけ親しくしたからとて、なんの特別なことをしたのだろう。異教人でも同じことをするではないか**」を挿入、「**御子イエス・キリスト様**」は、実生活から分離しないことを示される。

⇒「**天の父の広さ**」、「**一見無理で乱暴なくらいの強烈な比喻を使われ、主は十字架のキリストを見て天の父の広さに衝撃を受ける人にだけ、これに気づけとそう呼びかけておられるのです。**」

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇本日は、**マタイ5章43～48節**です。**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中理解する中で、**本日の箇所**に聞きます。
- ◇**マタイ5章17～48節**は、「**天の国の戒め・律法**」で、「**御子イエス・キリスト様**」は、**マタイ5章1～16節**の「**幸い**」が、反映されています。
- ⇒**神の民イスラエル**は、**モーセの律法**、その中心である**十戒**を**民の律法**として**大事にし**、その解釈や適応も詳細でした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」が、語られた「**幸いの律法・天の国の戒め**」には、「**イスラエルの律法学者**」の「**義**」を超える「**天の国の戒め**」があり、「**敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい**」もその一つです。
- ◇「**主の弟子たちの役目**」は、大事です。彼らは、「**天の国の戒め・幸いの福音**」を聞いたから。

- ⇒「御子イエス・キリスト様」は、「わたしはあなた達に言う、敵を愛せよ。自分を迫害する者のために祈れ」、「だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』」の2つの命令を通して、「**天の父の広さ**」とともに、「**私たちが担いきれない罪の現実**」を見せ、「**不完全**」を日々、瞬間瞬間示され、悔い改めに導かれるのです。
- ⇒主に罪咎を見出されない人は幸いです。主がその罪咎を「**完全に覆って下さった**」からです。
- ⇒そして、「**不完全な不完全者**」は、「**完全な方**」の十字架の恵みに覆うていただくように、**マタイ5章48節**；「だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』」と、命じて下さっているのです。
- ⇒「**わたしが、理不尽な要求も、十字架の死をもって背負う**」と言って下さるので、「**相手が憎くなければ、求められるものを手放しましょう**」。